

田辺かずき 県政報告

古賀発！ただいま
県政刷新中！

第15号
2013年度 総集編
2014年4月発行

<田辺かずき事務所>
〒811-3103 福岡県古賀市
中央 1-6-41-203
TEL : 092-692-8510
FAX : 092-410-7730
メール: challenge@
tanabe-kazuki.jp

【4ページ拡大版】
■対話と発信の意義…2
■3年間の提案実績…3
■一般質問を詳しく…4

新年度も地元の「声」から

□古賀の魅力が全国一

2014年2月13日、
東京・日比谷公会堂。古賀の若手農業者の取り組みが、全国最優秀賞に輝きました。若手が力を合わせ、新たな特産品とし



古賀の皆さんからいただいたご意見を踏まえ、一般質問=2014年3月10日

て「スイーツコーン」を栽培・販売し、親しみをもってもらおうとニューヒーロー「ヨメニコーン改」を生み出した取り組み。発表の現場で、地元の皆さんと喜びを分かち合えたことを心から嬉しく思います。

□2月定例会で 若手支援を提起

農業、商業、工業が息づく、古賀。この魅力を引き出し、つなぐことで、まちが活性化します。私が県議会で知事に対し、農商工連携・6次産業化の取り組みを促してきたのは

このためです。2014年度当初予算を審議した2月定例会でも「若手農業者の支援策」を大きなテーマに掲げ、知事に提起しました。4面に詳報。

□地域活性化の 後押しを

地元中小企業の取り組みも素晴らしいものがあります。谷山の船原古墳で見つかった「国宝級」とも評される馬具を、地元の金属加工会社「ナダヨシ」が全国でも認められている高い技術力で再現。私も昨年12月定例会・一般質問で、県として馬具の調査・分析などで古賀市をしつかりと支援する

ように求め、教育長も応じています。

□対話と発信の さらなる強化

県議就任からまもなく丸3年。古賀をはじめ県内の多くの皆さんと「対話」をさせていただき、知事に質問・提案することで県政の推進につなげてきました。4年間の任期の総仕上げとなる2014年度も、「政治が手元にある」と実感していただけるよう、「対話」と「発信」に努めていきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



ナダヨシが再現した「金銅製歩挿付飾金具」など

田辺の政治活動を連日発信しています！

田辺かずき で 検索

ブログ(政治活動日記)

<http://ameblo.jp/tanabe-kazuki/>

公式ホームページ

<http://www.tanabe-kazuki.jp/>

facebook

<http://www.facebook.com/kazuki.tanabe>

Twitter

アカウント→ @tanabe_kazuki

県議会と知事・行政は、県政を動かす「車の両輪」です（＝二元代表制）。県議は、住民の皆さんの「

暮らしの現場」の課題について、知事・行政が気づいていないことを指摘して課題の解決を促すために、本会議や委員会の場で質問・提案をします。知事・行政が既に取組んでいる解決策が適切なものか十分なのかをチェックする役割もあります。

私は就任以来、全ての定例会の本会議で一般質問を行ってきた数少ない県議の一人です。質問は、地元・古賀市をはじめ県民の皆さんとの「対話」で分かった課題を踏まえ、た内容になるよう強く意識してきました。その結果、少なからず県政の前進につながっています。

例えば、地域の中で在宅介護をサポートする「宅老所」の支援策は、私の提起がきっかけとなり、県の取り組みがゼロの状態から、新たな政策が生まれることになりました。特に注力してきた地域防災力の強化については、自主防災組織の設立促進、災害時要援護者避難支援体制の確立、原動力防災体制の整備など多岐

提案が「暮らし」に生きるということ

にわたる分野で幾度となく指摘してきました。古賀市では2012年度から13年度にかけて、県の防災モデル事業が多く取り組まれ、安全・安心な地域づくりにつながっています。ほかにも、筑紫野古賀線をはじめ市内の道路建設、河川整備、子育て支援、家庭・地域・学校の連携による教育力向上など、私が3年間で取り組んだテーマは県のほぼ全ての部局にまたがりま

す。医療・介護の体制強化も図っています。県は、古賀市が誇る福岡東医療センターを地域の拠点病院と位置づけて整備を進めています。災害拠点病院としての耐震化、感染症指定医療機関としての施設設備が進められ、在宅医療のための電子ネットワーク化にも取り組んでいます。また、地域救命救急センターとしての指定も行われます。

「県政は見えにくい」と言われてきました。新聞やテレビで毎日報道される国政、目の前の生活に関わることの多い市政と比べて。このため3年間、自身の「質問」と「発信」によって具体的に県政の取り組みを「見える化」しようとしてきました。引き続き、「身近な県政」を目指してまいります。

対話する

政治の原点は、そこに生きる人との「対話」だと考えます。さまざまな現場で多くの人の「声」を聞き、社会の課題を把握し、解決につなげる。政治家として、この信念を大切に活動を続けています。

古賀市内全域の公民館・集会所を回り、県政報告と意見交換を行う対話集会。14年3月までに延べ49カ所で開催しました。集会では多くの地域課題をいただき活動に生かしています。これに加え、さまざまな団体さんの会合、サークル活動、お茶会などにお招きいただき、県政報告をしています。

また、地域行事を全力で回らせていただいています。夏祭りや敬老会、運動会、もちつき、河川の清掃はもとより、商工会や文化協会、体育協会、老人クラブ連合会など各団体さんのイベント、市民劇団の公演にも参加するなど積極的に交流を図っています。ぜひ、お声掛けください。



発信する

政治を身近に感じてもらうためには、政治家からの「発信」が不可欠です。1～2カ月に1回のペースで県政報告を発行し、郵送や新聞折り込みを実施。さらに、朝の古賀駅、千鳥駅、ししぶ駅に立ち、配布しています。日々の政治活動の詳細は、インターネットの公式HPやブログ（活動日記）、Facebook、Twitterを使い、連日報告しています。ブログは県議就任後、800回以上、更新しています。いずれの「発信」も、活動の意義が伝わるよう、分かりやすい記述に努めていますので、ぜひご参照いただきたいと思います。

質問・提案する

【子育て・教育】

子どもの学力・体力の向上は重要課題であり、福井県などの教育先進校における視察・調査を行ったうえで提案を続けています。地域間格差の解消も目指しています。また、所属会派として学校教育における情報通信機器の活用（ICT化）も求め、電子黒板やプロジェクターの整備に向けた取り組みを実現しています。13年9月には子ども会育成会とアンビシャス運動の活性化に向けた支援を強く求めました。

「ネット依存」対策については、私は県議会ではいち早く問題提起しました（12年9月）。なお、14年度予算には県内の中高生を対象としたネットの適正利用を促進する取り組みが新たに盛り込まれています。

【建築、道路・河川】

住宅など建築物の耐震化促進は県政の重要課題です。所属会派として知事に対し、私たちの「暮らし」に直結する住宅の耐震改修事業の推進を強く求め続け、県内全市町村における耐震改修促進計画の策定が実現する見通し。さらに県は、市町村の財政負担がなくても耐震改修工事の経費を補助できるように制度を変更し、耐震化の促進を図ることになりました。

私は議会においても筑紫野古賀線の整備促進を求め、県も「早期整備に努める」と説明。県は久保区内で進めている都市計画道路・中川熊鶴線をはじめ市内各地域の県道整備、大根川などの河川の除草や浚渫といった河川整備にも取り組んでいます。なお、県は横断歩道や信号機の設置も着実に進めており、小野小学校前や庄の交差点付近、中央区公民館前などで実現しています。

【経済／景気・雇用】

私は現在、新社会推進商工委員会にも所属。中小企業・小規模事業者の経営支援、地域商店街の活性化、海外ビジネス展開の支援、水素エネルギー社会の構築などの取り組みの充実を図っています。13年秋には古賀市が、環境を軸とした産業の国際競争力を強化する「グリーンアジア国際戦略総合特区」のエリアに指定され、企業への課税の特例措置や金融支援の仕組みが導入されます。

また、委員会では県として4月からの消費増税対策に確実に取り組むように要請しており、需要の落ち込みを緩和するために発行規模が拡大された「プレミアム付き地域商品券」の早期発行を促しています。このほか、2月定例会・代表質問では、東南アジアやインドにおける県内企業のビジネス展開や県産品の販路拡大、観光客誘致、友好提携地域との交流促進を図るため、バンコク事務所の体制強化を求めました。

【防災・安全】

古賀市では、防災体制強化のため、県の事業が多く展開されています。高齢者の皆さんら災害時要援護者の避難支援のための個別計画策定には、12年度に古賀団地区と花鶴丘3丁目区、13年度に古賀東区と新原区が取り組みました。また、小山田区・小野校区の自主防災組織設立、古賀西校区の地域津波避難計画策定、古賀市における災害対策本部設置運営訓練も実施しました。

さらに13年11月には、糸島市から古賀市への住民避難を想定した福岡県原子力防災訓練にも参加。これらの事業の促進を図るため、県議就任以来、さまざまなテーマで知事らに問題提起をしてきました。引き続き、しっかりと取り組みます。

田辺かずきの質問・提案実績（一般質問、予算・決算両特別委員会の合計、2014年3月16日現在）

>>> 12回連続 38テーマ

質問議会	内容	分野	質問議会	内容	分野
2011年6月	大規模災害時の広域避難・集団避難の体制整備	防災・減災	2013年2月	農商工連携・6次産業化による農業振興	農業・園芸振興
同	首都機能移転論と道州制	総合政策	同	福岡県の観光戦略	観光振興
予算特別委	「家電の無料回収所」対策	廃棄物対策	予算特別委	地域における在宅医療体制の整備	医療・介護
同	若年層の就業、所得対策	労働政策	同	男女がともに能力を発揮できる社会づくり	男女共同参画
同	「古賀警察署」の新規設置	警察・治安	同	応急仮設住宅の指針の策定状況	防災・減災
同	国際戦略総合特区の展望と課題	経済・ 商工政策	2013年6月	地域防災体制の強化（帰宅困難者、南海トラフ等）	防災・減災
2011年9月	地域共生型介護の普及（宅老所支援）	医療・介護、 高齢者支援	同	地球温暖化対策推進の次期計画	環境保全
同	実効性ある防災教育	防災・減災	2013年9月	子どもの遊びの実態とその改善策	青少年健全育成
2011年12月	生活保護のあり方と障がいの早期発見	保護・援護、 障がい者福祉	同	子ども会育成会と青少年アンビシャス運動の活性化	青少年健全育成
同	ミカン農家の現状と果樹振興策	農業・ 園芸振興	同	学校と家庭、地域の連携による子どもの体力向上	義務教育、 社会教育
2012年2月	応急仮設住宅の指針（ガイドライン）策定	防災・減災	決算特別委	原子力災害時の広域避難の受け入れ体制	防災・減災
同	宅老所支援費	医療・介護、 高齢者支援	同	食育の推進と県産農産物の消費拡大	食の安全・ 地産地消
予算特別委	住民の防災意識向上策と防災教育の所管	防災・減災	同	少子化対策のあり方（出会い応援事業の検証）	子育て支援
同	買物難民（買物弱者）対策	高齢者支援	同	主要地方道・筑紫野古賀線の整備促進	道路建設
同	中小企業のアジア展開支援	中小企業振興	同	子どもの体力向上策（スポコン広場の検証）	義務教育
2012年6月	新たな教育施策と家庭、地域の教育力向上	義務教育、 社会教育	2013年12月	地域公共交通の将来像（デマンド型交通の導入促進）	広域地域振興・ 交通政策
2012年9月	子どもの「ネット依存」対策	青少年健全育成	同	文化財行政における市町村支援（船原古墳）	文化財保護
同	「貧困の連鎖」を防ぐ支援強化策	保護・援護	2014年2月	保健師の活動の促進	医療・介護、 高齢者支援
2012年12月	災害時要援護者避難支援の個別計画策定促進	防災・減災	同	若手農業者の支援策	農業振興

農業振興、食育推進を知事に提起!

2月議
一般質
問

若手農家の育成・支援策を 知事「地域の担い手として支援」

2014年度当初予算を審議する福岡県議会2月定例会(2月26日(3月28日)の一般質問で、私は地元・古賀市の重要な産業のひとつである農業の振興策について、小川洋知事に質問しました。特に今回は「若手農業者の支援策」をクローズアップ。わが国の根幹である「食と農」の価値を次世代につなぐ重要性を提起しました。

質問のきっかけは、2月12、13両日、東京・日比谷公会堂で開催されたJA全国青年大会への参加でした。JA粕屋青年部の秋山隆哉さん(古賀市青柳)が九州・沖縄ブロックの代表として出場。地元の仲間と連携して新たな特産品として「スイーツコーン」を作り、



2月定例会・一般質問で小川知事(左前方)と議論=2014年3月10日

地域を巻き込んだ農業祭りを開催、さらにコーンをPRするためにニューヒーロー「ヨメニコーン改」を生み出した経緯を発表し、最優秀賞に輝きました。

また、大会では全国各地の若手農業者の意欲あふれる取り組みが地域振興につながっていることを実感できました。この経験を踏まえ、「若手だからこそ創造性と行動力」を農業振興につなげる重要性を知事に提起しました。

質疑では、制度2年目となった「青年就農給付金」が新規就農者数の大幅な押し上げにつながっている具体的な現状も明らかになりました。私からは、離農を防ぐ「定着支援」を求めたい。古賀のケースのように「地域づくりを見据えて頑張っている若手農業者の取り組みへの支援」を強く促しました。

知事は、普及指導センターに



ヨメニコーン改、発表者の秋山隆哉さんと

古賀の若手農家の取り組みが全国で高く評価された=2月13日、東京

田辺の提案が14年度予算に反映

農政の2014年度予算には、新たに「県内小学校の調理実習における県産果実の活用」が盛り込まれました。これは昨秋の決算特別委員会において、私が「次世代を担う子どもたちへの『食育』については、農とともに歩んできたわが国の国柄を伝え、永続していくためにもっとも注力すべきもの」として、学校現場における「体感できる」機会の創出、拡大を求めたことが実ったもの。なお、一般質問では「福祉の充実」を図る観点から、「保健師の活動の推進」も提起しました。この詳細は次号に掲載します。

おける新規就農者へのきめ細かな技術指導や経営指導、若手農業者に対する資質向上につながる活動経費の支援などを挙げながら、「新規就農者また若手農業者が、地域の重要な担い手となるよう支援を続ける」と約束しました。

谷山の消防ポンプ車がバンコクへ!

福岡県とタイ・バンコク都は友好提携を結び、幅広い交流活動が続けてきています。古賀市消防団第17分団(谷山区)に消防ポンプ自動車(旧車)をバンコクに贈ることになりました。これは、私が所属する福岡県タイ友好議員連盟がバンコク都議会と話し合い、「防火体制の充実」に協力することを決め、実現したものです。3月2日に開かれた新車両の配備式で、私から地元の皆さんに感謝を申し上げました。



■サポーター登録のお願い

県議としての活動を多くの人に知ってもらうため、皆さんのお力を少しずつ貸していただきたく思います。この県政報告をご近所やお知り合いに配布していただける方は、事務所(092-692-8510)にご連絡ください。

■後援会から

後援会を募集しています。入退会は自由。後援会は2010年12月以降、ハガキなどの所定の用紙で登録いただいた方を会員とし、田辺自身の執筆による『県政報告』を郵送しています。「政治家には説明責任があり、自らの活動の詳細を有権者の方にお知らせする義務がある」との強い思いからです。会員に特段の義務は発生しません。後援会規約をご希望の方、また会員であることが不都合な方は事務所までご連絡ください。なお「対話集会」にご参加いただいた方にも郵送しています。

<田辺かずきプロフィール>

- 1980年5月16日生まれ
- 1987年 暁の星幼稚園 卒園
- 1993年 花鶴小学校 卒業
- 1996年 古賀中学校 卒業
- 1999年 福岡県立福岡高校 卒業
- 2003年 慶應義塾大学法学部法律学科 卒業
- 毎日新聞社 入社/福井支局 配属
- 原発事故や災害弱者、日本人拉致問題などを取材
- 大阪本社社会部 配属
- 橋下徹・大阪府知事(当時)、大阪府警、甲子園、福祉問題、地域活性化、国際紛争などに取り組む
- 2011年 福岡県議会議員 初当選
- 厚生労働環境委員会(～13年)
- 国際交流推進対策調査特別委員会(～13年)



【所属】福岡県議会・新社会推進商工委員会
同・防災及びエネルギー・水安定供給調査特別委員会
民主党青年委員会事務局次長
福中・福岡同窓会顧問

【家族】会社員の妻、7歳の長男、3歳の長女

【最近の私事】長男に野球のグローブを買ってあげました。初めて親子でキャッチボールをしましたが、思った以上に良い球を投げてくれます。ソフトバンクの試合に子どもたちを連れていって楽しそうに応援してくれました。一人の親として、こうした時間も大切にしたいですね。ノチ五輪、同世代の上村愛子選手に感動しました。私は県議会のスポーツ議員連盟の幹事も務めており、引き続き、県民の皆さんのスポーツ振興にも力を尽くします。